

## 第 6 回嶺南地域流域検討会における質問事項の回答 佐分利川水系

第 6 回流域検討会で委員から出された流量の減少などに関する質問事項に対して、河川管理者より回答が行われました。

### 委員からの主な発言

1. S45 以降の観測流量データは横ばいであるが、多くの方が流量が少なくなったと感じている。この違いについて、何か要因はあるのか。
2. 佐分利川水系の湯水危険度が嶺南の他の水系と比べてどれくらい厳しいか教えてほしい。

## 早瀬川水系の現状・課題と目指すべき方向性について

早瀬川水系の概要、流域および河川の特徴、これらを踏まえた今後の方向性について、河川管理者より説明がありました。

流域および河川の概要（自然環境特性・社会環境特性・河道特性・動植物の紹介など）  
目指すべき方向性 < 治水、 利水、 環境 >

### 委員からの主な発言

1. 計画規模の決め方、基準点の決め方を教えてほしい。  
【河川管理者】早瀬川水系として流域面積、流域内の資産等を考慮すると、計画降雨規模は 1/30 が妥当であり、1/30 で設定する予定です。基準点は、水位観測所がある鱒川河口（鳥浜）と考えており、湖の水位は、周りの地盤高との関係を考慮しながら水位を設定することを考えています。
2. 放水路を作った場合、淡水と汽水の範囲が変わるが社会的に問題がないのか。  
【河川管理者】シミュレーションを行っており、地元で協力が得られると思われず。
3. 水月湖の水質汚濁の原因は何が考えられるか。  
【大竹委員】特に原因は特定されていません。全窒素や全リンが多いという観点から言えば、田畑や梅林からの肥料の流出がひとつの原因といわれている。
4. 三方湖の水質改善として、浚渫を行っています。なぜ三方湖の浚渫をおこなっているのか。  
【河川管理者】浚渫可能な深さがあることと、鱒川からの流入付近で行っている。今後は浄化対策に向けた湖岸整備も進めます。
5. 護岸は治水的には効果があると思いますが、今後の整備におきましては治水と生態系を両立した工法を今後検討する必要があります。自然の状態は、水際に植生が生育し、仔稚魚の生息、生育場所や魚類の産卵場所となる。